

恥ずかしくて無視される問題。 —インドでの野外排泄の現状—

Marta SZCZYGIEL (マルタ シチギェウ)

大阪大学 (ポーランド)

はじめに

人間は生きていく上で必ず排泄しなければならない。排泄というと最初にトイレが思い浮かぶのだろうが、実は世界人口の 60% はトイレがない。つまり、この世のより多く人が毎日トイレを利用しないわけである。そしていわゆる野外排泄を日常的にする世界の人口数のうち、約 60% を占めているのはインドである。

本論文では世界最大の野外排泄大国と呼んでも過言ではないインドを例に挙げ、衛生設備がないことが健康面、環境面および社会面ではどのような影響を与えているかを分析し、その問題の解決の可能性について述べる。

ボリウッドでは見られないインド

最近人気のあるボリウッド映画、つまり世界最大の規模を誇るインド映画産業の映画を見ると、ニューデリーなどの大都市の立派な光景が見られる。しかし、多くの場合にはテレビで見る道の向こうにスラムがあり、そこに住んでいる人々は豪華な生活を送っているどころか、家にはトイレがない。排泄したい時は野原へ行って用を足す。この行為は様々な問題を起こしている。

飲料水に悩む田舎の人々

飲料水が徐々になくなっているのが現状である。そのため、蛇口をひねって水道水が飲める私たちには想像しがたいかもしれないが、飲料水を確保するため片道 2 時間を歩かねばならない人々はいらる。飲料水がすでに不足しているにもかかわらず、人間その水をさらに工業汚染などで汚している。そして、野外排泄による汚れも少なくはない。

昔はし尿が普通に利用されても何も問題なかったが、世界の人口を考えてみよう。インドの人口は 2022 年までに約 14 億人に達して、その後さらに増え続け、中国を上回るとの新たな予測を明らか

にされた。また、インドは日本並みの人口密度だということを考えるとさらにわかりやすいだろう。狭いところに密集している人々が同時に用を足すと、文字通りに踏み場は無くなる。

子供たちの命が失われる原因

排泄物は病原体を含んでいるため、排泄物に接することによって病気を引き起こすこともある。とは言え、健康な身体であれば、多くの場合には大変なことには至らない。しかし子供はまだ免疫力が低く、「たかが」の下痢でも命を落とすことが十分に考えられる。

インドでは子供の4割が栄養失調に陥っている最大の原因は食料不足ではなく、衛生状態だとされる。また、5歳未満児死亡人口が全世界の約21%を占めるのである。その死因の第3位が下痢症であり、主な原因は排泄物の雑菌に汚染された飲食物による経口感染であるとも言われている。

加えて、近年増加しているスーパー耐性菌を取り上げよう。抗生物質を使いすぎると、細菌がそれに対する免疫を獲得し、どの薬でも効かなくなる。そして、野外排泄などによる衛生状態がよくなり、病気になりやすいせいか、インドは抗生物質の世界最大の消費国になっている。抗生物質の過剰使用によって2010年にインドでは最も強力な抗生物質でも効かない新型のスーパー耐性菌が発見された。スーパー耐性菌がさらに増え続け、世界中に普及する恐れがあり、インドだけの問題とは言い切れない。

女性にとってのトイレ

2014年の5月にインド・ウッタル・プラデシュ州のバダウン地区に起きた事件が世界をショックさせた。14歳と16歳のいとこ同士が5人の男に集団レイプされ、木に首をつった状態で死亡しているのが見つかった。実は、彼女らが襲われたのは「トイレ」へ行く途中であった。インドの農村部では、約65%の住民が屋外で排泄しているようである。しかし、女性はそれを恥ずかしがる傾向があり、男性が寝ている間に野原へ向かう。一日中排泄を我慢しなければならないことが女性たちの尊厳を脅かすだけでなく、安全をも脅かしていると、ユニセフ・インド事務所代表が強調している。

また、彼女らはカーストの枠外に置かれる最下層「ダリット」の出身であり、普段そのような残酷な被害に遭うのはダリットたちである。さらに、学校に衛生設備がない、もしくはあっても自由にトイレへ行けないため、少女たちが月経期間中に登校しないこともある。このようにトイレがないことが社会的恥辱や格差社会を強めることにつながる。

寺よりトイレ

インド政府がこの問題を見做しているわけではない。ナレンドラ・モディ首相が総選挙で宗教に費やすお金を減らし、衛生にかけるお金を増やすべきという意味で「寺よりトイレ」と発言した。政府が2014年10月に「スワッチ・バーラト」、クリーン・インドというキャンペーンをスタートさせ、「公衆衛生は独立より重要」と呼びかけていたマハトマ・ガンディーの生誕150周年に合わせ2019年10月までに公衆衛生およびゴミ問題の解決を目指す。しかし、問題はトイレを作っても、それを利用しないインド人がたくさんいるということである。ある調査によると、政府が建設したトイレのうち43%が勝手に倉庫などに転用されていたり使用不能となっているという。

トイレに関する意識

なぜインド人の中にトイレを使いたがらない人が多くいるのだろうか。そのわけは伝統的な偏見にある。トイレを利用する意味がわからない人の意見を見よう。まず、トイレの中で排泄することが不潔だと思われることが印象的である。

「人は不浄と一緒に閉じこもると？どこが清潔なの？気持ち悪い。野外へ行くのが普通。」

「トイレは臭い。政府に作らないかと進められたが、断った。トイレで排泄すると悪臭が体の中に入って、病気になる。」¹

次、トイレが建設されても常用しない世帯が多くある。

¹ Youth Ki Awaaz、2014.

「トイレは老人、子供や不自由な人が使うものだ。夜中に下痢になった場合に使うしかないが、普段は要らない。」²

逆に、野外排泄は健康的であるというイメージがある。

「野原へ行ったらきれいな空気が吸うことができる。いい運動にもなる。」

「野外排泄は最高。トイレなんか、気持ち悪くて吐きそうになる。外で用を足すとすっきりするし、心からうれしくなる。」³

また、伝統的に排泄物の掃除はダリットに属する人々の仕事だったということもある。未だにカーースト差別が強く残っているインドではそれが大きな影響を与えていると言えよう。理由はどうであれ、現在インドで家にトイレがある人より、携帯電話を持っている人の方が多い。

バングラデシュの成功の秘密

しかし、伝統的な偏見の問題だけであれば、文化的、宗教的や社会的なスタンダードが似ているバングラデシュは野外排泄に歯止めをかけることに成功しなかった。が、バングラデシュはたったの20年で野外排泄する人々の割合を34%から3%へと引き下げた。

CLTS手法

バングラデシュで野外排泄はほとんどなくなった背景にはCLTS、Community Led Total Sanitation 手法がある。CLTSとは地元で手に入る素材を使い、地元の人たちが自分の意思と自分の手でトイレをつくることである。1999年にバングラデシュに導入されてから様々な途上国で紹介され、衛生環境の改善をもたらしてきた。そしてこのアプローチの成功の秘密は嫌悪を引き起こすステップ、トリガリング。

² Ibid.

³ Ibid.

まず、NGOのスタッフがコミュニティの住民を集め、みなと不衛生な状況と、トイレの必要性をワークショップ形式で説明する。村の地図を描いたら、普段野外排泄している場所を砂でマーキングする。水を村人にすすめて、飲んでもらう。その後、排泄物を拾って集合場所へ持ってくる。帰ったらハエの足にたとえた髪を排泄に接させ、水の中に入れる。再びに水を村人に勧めるが、今回は水を飲む人は誰もいないだろう。このようにトリガリングによって村人がトイレづくりを決意し、実際に自分の手でトイレを作る。⁴

インドでのCLTSの試み

しかし、インドでCLTS手法は知られていないというわけでもない。普段成功率が高いが、残念なことにインドでは効果はあまりなかった。主な理由は助成金であろう。CLTS手法のもっとも重要なポイントは改善を求める意思を引き起こすことである。しかし、トイレを作った代わりにお金を提供すると、貧困な生活を送っている人は当然ながらトイレの必要性を考えるよりお金を重視する。そのため、前に述べたように政府が作ったトイレの半分弱が倉庫などに転用されているわけである。CLTS手法を使って野外排泄に本当に歯止めをかけたいなら嫌悪感を利用してトイレづくりの意志を引き起こすしかない。

おわりに

野外排泄という問題は最近徐々に注目するようになったが、まだ無視されることが多い。それはやはり排泄は世界共通のタブーだからだろう。しかし、恥ずかしくて話さないのではなく、恥ずかしいからこそ話さなければならない。そうでなければ、一生何も変わらないだろう。私はこの論文で野外排泄がいかに深刻な地球問題であるかを一人でも多く人に気づいてもらいたい。

参考文献

Asahi Shimbun Digital, 「インド・ウッタラプラデシュ州 新たなギャングレイプ殺人を強く非難」、
2014年6月11日。

⁴ Nepia.

http://www.asahi.com/and_M/information/pressrelease/CPRT201414095.html アクセス:2015年10月14日。

Business Journal, 「どんな薬も効かないスーパー耐性菌が爆発的増加 原因はインドでの抗生物質の乱用?」、2014年10月19日。http://biz-journal.jp/2014/10/post_6266.html アクセス:2015年10月14日。

Community Led Total Sanitation HP,

<http://www.communityledtotalsanitation.org/page/clts-approach> アクセス:2015年10月14日。

Financial Times, 「インドのモディ氏、「寺よりトイレ」を貫け」、2014年5月16日。

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFK15039_V10C14A5000000/ アクセス:2015年10月14日。

Nepia, 「千のトイレプロジェクト」、<https://1000toilets.com/sanitation/toilet.html> アクセス:2015年10月14日。

Reuters, 「ガンジー記念日は清掃を、インド首相が当局者に休日出勤指示」、2014年9月30日。

<http://jp.reuters.com/article/2014/09/30/gandhi-day-idJPKCN0HP0B220140930> アクセス:2015年10月14日。

UNICEF, “Levels and Trends in Child Mortality 2014”, 2014.

United Nations, 「World Population Prospects, The 2015 Revision」、2015.

Youth Ki Awaaz, „Lack Of Toilets Is Not The Only Reason Why People Defecate In The Open”, 2014年7月7日。

<http://www.youthkiawaaz.com/2014/07/lack-toilets-reason-people-defecate-open/> アクセス:2015年10月14日。

フォーサイト, 「クリーン・インドはインドを救えるか」、2014年11月10日。

<http://www.fsight.jp/30420> アクセス:2015年10月14日。

日本経済新聞、「インドのモディ氏、「寺よりトイレ」を貫け」、2014年5月6日。

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFK15039_V10C14A5000000/ アクセス:2015年10月

14日。